

令和7年度 学校自己評価表

《学校教育目標》		《重点目標（中長期的目標）》	
<p>幅広い教養と高い専門性を追求し、社会に開かれた学びをとおして、平和な未来に貢献できる心豊かな人間を育成する</p>		<p>【ひとづくり（豊かな情操を育む人間形成）】</p> <p>1 生命の尊厳を自覚し、真理と正義を愛する知識・教養・創造性豊かな人間の育成に努力する。</p> <p>【ものづくり（付加価値の創造）】</p> <p>2 独創(Originality)・想像(Imagination)・工夫(Device)・努力(Effort)の精神を尊重し、工業・商業両分野における“ものづくりの拠点校”としての役割を果たす。</p> <p>【学校づくり（充実した学びの場の構築）】</p> <p>3 安心・安全な学校(いじめ・体罰のない)をめざすとともに、環境教育や総合技術高校としての専門教育の充実による特色ある教育システムを構築する。</p>	
領域	項目	具体的な教育活動（RO7）	成果と課題
ひとづくり	1 自他を大切にする	<ul style="list-style-type: none"> 様々な教育活動をとおして自己理解を深める取り組みを行い、自己肯定感や他人を思いやる気持ちを育てることにより、命を大切に教育を推進する。 メディアリテラシー、人権平和教育等に関する教育活動を推進する。 「いじめ防止基本方針」を定め、「いじめ」を許さない学校づくりを推進し、いじめ被害の未然防止・早期発見・迅速な解決を目指す。 クラブ活動や生徒会活動に積極的かつ自主的に取り組む中で、周囲と円滑な人間関係を築き、他人を思いやる心を持った豊かな人間性を育む。 生徒自身が積極的に活動に取り組めるよう生徒会行事や日々の委員会活動を計画・実施し、その活動を通じて他人を尊重する態度や思いやりの気持ちを育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年会での情報共有を密に、生徒の状況を多くの職員で把握することができるようになった。職員への研修会も行き生徒への接し方についても考え、取り組むことができた。(教育相談) 映画「夕風の街 桜の国」の鑑賞を全校で行った。ここ数年、ニュースで海外の戦争の様子は伝えられているが、どうしても今の日本での私たちの生活とは別世界のイメージに生徒たちに捉えられてしまっている。しかし、広島への原爆投下という忘れてならない日本で実際にあった辛い事実を年齢に近い主人公の立場で鑑賞を行うことができた。(キャリア学習 人権平和) クラス内や部内において、人間関係がうまく作れない生徒が増えてきている。いじめの発生はいつでもあり得ることで、未然防止・早期発見に努めていく。ネットを介したコミュニケーションが一般化しており、それにかかわる問題行動が多くなってきている。SNS等に起因するいじめ事案は表面に表れにくいので、常に生徒の様子に注目し変化を捉える必要がある。(生徒指導) 生徒会として、個々の委員会活動を積極的にを行い、文化祭やクラスマッチなど安全面に配慮しながら行事を行うことができた。また、校則のルール改正に向けて取り組み、役員のみならず全校生徒に向けて発信することができた。(生徒会)
	2 基本的生活習慣の	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活において、職員全体による働きかけから挨拶・服装・頭髪などに対する生徒自身の意識の向上と、5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)の徹底を図る。 生徒会役員のあいさつ運動(4月、12月)、生活委員会の交通安全運動(4月)や身だしなみを整えさせる活動(5月、11月、1月)で全校生徒に働きかけ、基本的な生活習慣を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 校則のルール改正について、昨年度に引き続き活動を行うことができた。改正に向けたルールを全校生徒で考えていきたい。(生徒会) 全般的に生徒は落ち着いた雰囲気の中で学習に取り組んでいる。授業開始時の見回りや登下校時の立ち番指導等を必要に応じ計画的に実施してきたが、身だしなみや挨拶等に改善の余地がある。スマホの取り扱い、服装について生徒会係とともに「新しいルールづくり」の呼びかけをする。(生徒指導) 清掃の徹底のため、ごみ収集、清掃のための備品整備などができた。(美化推進)
	3 得意分野の伸長(卓越性の伸張)	<ul style="list-style-type: none"> 個々の意欲や特性ならびに能力を活かした活動ができるような環境や指導体制を整えるとともに、活動を校内外に広く発信することにより活動意欲を喚起する。 課題研究をはじめ様々な授業で積極的に外部との連携を図り、21世紀型スキルの1つであるコミュニケーション力を育成する。 授業、クラブ活動、行事等をリンクさせ、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し行動して、問題を解決する能力を育む。 キャリアデザインにつながる資格・検定・コンテスト等の紹介や日程等の詳細な情報提供を行う。 終業式等の全校集会時に難易度の高い資格取得や検定合格を表彰し、資格取得に向けての意識づけを強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な分野を学び、資格取得をすることができる環境を活かし、全学科で取得可能な検定・資格を明示し、各学期毎の終業式時に全校に向けて合格証書の授与式を実施し、生徒の意欲に結びつけることができた。(キャリア学習) 社会基盤工学科の課題研究では「松川おいでなんしょプロジェクト」において長野県建設業協会及び長野県測量設計業協会と連携し課題に取り組んだ。(社会基盤工学科) 課題研究において、長野県建築士会飯伊支部の協力のもと設計に関するワークショップを行い、生徒自身が建築士の方と意見交換をしながら実践的な思考を育むことができた。(建築学科) 1年次、2年次、3年次と「地域人教育」の授業において、系統的な授業を計画し、地域の方、地域の企業の方、大学の先生の協力のもと、主体的に授業に取り組む、個々の能力の向上に取り組むことができた。(商業科)
ものづくり	1 基礎学力の定着(高校教育の共通性確保)	<ul style="list-style-type: none"> 学習習慣を確立させ、学ぶ意欲の向上を図る。 3観点評価の適用に際しては、授業担当者間で連携をとりながら授業および定期考査の準備を行う。 家庭学習の習慣が身につくよう指導を行い、結果として資格取得に結びつけていく。 ICT機器を活用した学習支援態勢の構築を図る。 HRで活用できる道德教育ワークシートを配布し、様々な社会的課題や地域の問題についての知見を深め、関心をもって問題解決に向かおうとする態度を養う。 1年、2年、3年ともに学年に合わせた地域への課題意識を持たせ、課題解決能力を育成していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得という形で、学んだ成果を形にすることで生徒の学ぶ意欲を確立させることができるよう、各種表彰の機会を設けた。(キャリア学習) 実習を通して、PDCAを用いて課題に取り組ませ、自己評価や振り返り学習させ、学習習慣を定着・学ぶ意欲の向上を図った。(社会基盤工学科) 1年、2年では信州環境ECOコンテストに全員取り組み、地域の課題や環境を建築と結びつけながら考える機会となり、当コンテストでは最優秀賞を受賞することができた。(建築学科) 学年に応じた「地域の課題」の発見および解決方法模索に取り組ませることにより、課題解決能力を身に付けさせることができた。また、自分の意見を人に伝える機会を複数回設定し、表現力も身に付けさせることができた。(商業科)
	2 専門力の伸張	<ul style="list-style-type: none"> 各学科の教育指導方針に沿い、職業人としての心の育成、資格・検定取得のための指導、地域人教育での社会人基礎力の向上に取り組む。 実験実習や課題研究をとおして知識・技術、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性を向上させ、専門分野の実践的な力を身につけ、探究心を育む。 「高度な専門性」を伸長させるために、大学や地域の企業等と連携して幅広い授業展開を行っていく。 先端技術の見学で見識を深めたり、課題研究でSDGsの17の目標に関するテーマを取り上げて学習を進めるなど、視野を広げることでキャリア教育の充実を図る。(機械工学科) 県内の研究機関の見学や大学の出前授業、オリジナルのライトレースカー製作実習を通して電子機械分野の先進的な知識技術に触れ、専門性を高めるとともに創造性や将来への希望を喚起する。(電子機械工学科) 企業で活躍する本校卒業生を講師に招き、進路講話や技術披露等を通して高い目的意識を持たせながら専門的な高度資格取得とも連動を図る。(電気電子工学科) 複数の地元測量会社から卒業生を講師に迎えて最新測量機器の講習会を開催し、専門技術に対しての見識を深め学習意欲を喚起する。また、資格試験対策の実施や地域の企業団体の様々な協力により、資格取得に向けた意識の向上とキャリア形成を図る。(社会基盤工学科) 建築士会をはじめとする地域の建築業界から講師を招き、実践的な体験をすることにより建築技術の向上を図る。(建築学科) 地域人教育の取り組みを通して、地域の方との関わりを持ち、個々のコミュにケーション能力の向上を図るとともに、地域の課題を自分事として捉え、主体的に取り組む能力を養う。(商業科) 	<ul style="list-style-type: none"> 大阪関西万博の見学を通して、先端技術に触れることで、日本や世界が未来をどうとらえようとしているのか考える機会となり、学習の効果があつたと思われる。(機械工学科) 信州大学 繊維学部の見学、公立諏訪東京理科大学 教授による特別授業、歩行補助用ロボットスーツを研究販売する県内企業の見学を通し、電子機械の持つ可能性や“ものづくり”のイメージを膨らませる機会となった。また、オリジナルのライトレースカーの製作実習の中で、機械・電気・情報の3分野の融合を図り、作り手としての創造力や表現力を伸長した。(電子機械工学科) 企業で活躍する本校卒業生に、進路講話をしていただいた。技術披露見学会等を通して高い目的意識や、専門的な高度資格取得への意識の向上に役立てることができた。(電気電子工学科) サンフェア福島に職員を派遣し、文科省が進める事業の報告会や、ロボコン大会を参観し新たな学びを体感するとともに、自己意識の向上につながった。(電気電子工学科) 総合教育センターで、スマート農業や、IoTについての先端技術を学ぶ機会を作ることができた。(電気電子工学科) 最新測量機器を活用した講習会を実施し、専門技術の向上につながった。(社会基盤工学科) 資格試験対策として長野県測量設計業協会および建設業協会の試験対策講習会に参加し、資格取得に向けた意識向上を働きかけた。(社会基盤工学科) 建築士会による設計ワークショップ、建設業協会による現場見学や安全講習会、建設室内工事業協会による内装工事講習会など様々な体験を通し、実践的な建築技術の向上を図るとともに、その体験を進路選択の一助とすることができた。(建築学科) 地域人教育の取り組みを通し、地域の方、大学の先生、飯田市の職員の方など、幅広い方々との関わりを持つことができ、生徒一人一人がコミュニケーションの大切さを学ぶことができた。(商業科)

ものづくり

ものづくり

ものづくり

ものづくり

3 総合技術教育の推	<ul style="list-style-type: none"> ・「環境とビジネス(金融)」「地域活性プログラム」の授業通して、探究する力や協創する力の向上を図る。 ・他の総合技術高校との連携を深め、情報を共有することにより、学校設定教科「総合技術」の深化・発展を図る。 ・地域に根ざし、地域の課題解決のための課題研究に取り組む。 ・全校課題研究発表会の内容の充実を図り、本校の特色ある教育活動を企業や地域に向けて発信する良い機会と捉えて、効果的なPR方法を工夫していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校課題研究発表会は、各科の代表の発表を見ることにより、他科の学習内容に触れる機会を作るとともに、100名を超える、地域の方や企業の方にご来校いただき、本校ならではの学習成果を多くの方に知っていただくことができた。(キャリア学習) ・電気電子工学科ホームページでは、行事ごとに動画や資格の結果を掲示し視覚的にアピールできるよう見やすいページとなるよう工夫をした。(電気電子工学科) ・建設業協会と連携しながら、全校課題研究発表会に向けて生徒教員が課題を調査発見し考察しながら課題研究に取り組んだ。また、学科独自の発表会を設け課題の成果を発表し広くPR活動を行った。(社会基盤工学科) ・課題研究を通して地域の課題解決を目指した建築物の設計に取り組んだ。(建築学科) ・「地域人教育」の授業で1年次から実際に地域に出て活動を行い、地域の方の協力も得ながら飯田の現状を肌で感じながら課題解決のための課題研究に取り組むことができた。(商業科)
4 進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア学習や様々な進路行事をとおして自分の在り方や職業人としての生き方を構想する力を育む。 ・各種団体と連携して、会社見学や卒業生との懇談の機会を拡充する。 ・進路希望調査や面談により生徒・保護者の進路希望を把握し、専門高校の強みを活かした進路実現を支援する。 ・進学希望者、就職希望者に対する補習・面接指導を全職員の協力によって実施する。 ・入試制度や他校の指導事例に関する情報収集を行い、より効果的な指導を行えるようにする。 ・学習指導要領に呼応した評価・評定による進路指導関係の問題点を明らかにし、具体策を講じる。 ・「キャリアパスポート」のシートや学習支援サービスなどを活用し、自分の在り方や職業人としての生き方を構想し続ける力を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査は電子入力に変更したことで迅速な集計および情報共有ができた。また、求人情報は生徒個人の端末を活用して確認できるよう電子化を推進した。(進路指導) ・年度初めに進路指導係による3年生全員の面談を実施したほか、就職者については生徒個々に担当の進路指導係を割り振って事業所見学から採用選考後までをフォローすることができた。(進路指導) ・就職者の応募先を求人票公開前に調整したが、職種によっては事前に求人の有無を判断できず苦労した。(進路指導) ・全職員の協力をいただき夏休み明け以降3年生就職者・進学者の指導を行ったことで成果に結びつけた。(進路指導) ・四年制大学への進学については多様な入試方法を活用することで専門高校の強みを活かすチャンスが生まれるが、入試情報の把握や継続的な受験指導などが欠かせず、手厚い指導体制が必要であると感じている。(進路指導) ・各クラスで出前授業や校外研修などを行い、知識を深め、進路選択の動機付けを行った(1学年) ・各学科ごとに目的地や研修内容を決定し、キャリア学習を行なった。各クラスで進学・就職を問わず卒業語の進路や現在学んでいる専門科の学習内容についてより深く考えることができた。(6月) ・飯田職業安定協会による地元企業の説明会(会場:エスバード 12月月日)に参加した。就職希望者はこれ以前から企業に対し関心を持っていたと思うが、進学希望者も進学しその先の就職先としての地元企業を知ることや、企業の高校生に対する期待の大きさを知り、職業に対する意識を高めることができた。(2学年) ・各学科の3年生による「先輩の話を聞く会」を実施した。(1月) 進路先別に、それぞれの進路実現に向けてどのような準備が必要か、日頃の生活にのぞむ態度などを直に聞き、自分の日頃の生活なども振り返ることができた。(2学年) ・今年度進路状況については、進路・生徒支援・学年の協力体制のもと、生徒の希望に沿った実現が概ねなされている。(3学年) ・年内入試は受験資格や条件が、出願校や受験方法によって異なる。年々年内入試受験者が増加しており、期限が迫っている急な出願希望にミスが起こりやすい。担任の責任負担も大きく、生徒にとっても結果に不満が残るため、担任をサポートする体制づくりが必要と考えられる。(3学年)
1 安心・安全な学校	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理意識を高め、事案発生の場合に迅速で適切な対応を目指す。 ・様々な教育活動をとおして「集団の中の自分、自分を取り巻く集団」という意識を持たせ、人との関わり合いを大切にすることを育む。 ・職員間の情報共有を充実させ、不登校や障がいを抱えた生徒の日常生活を見守り、状況に応じてチームでの支援体制を整える。またSC(スクールカウンセラー)やSSW(スクールソーシャルワーカー)をはじめとした専門機関と連携を図り、校内外での支援体制を強化する。 ・感染症の流行拡大時の諸対応を関係分掌が連携して的確に行えるよう準備をしていく。 ・クラブ活動や生徒会活動に生徒自身が主体的に取り組み、教員や仲間とのかかわりの中でコミュニケーション能力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模な自然災害時に確実な安否確認を行うために、本校で運用している一斉メール配信による確認演習を1学期に実施した。メール登録率の一層の向上を図りたい。(教務係) ・生徒の動向に注意し、状況に応じた指導・支援を臨機応変に行った。さらに個々の生徒の実態把握に努め、家庭・地域・関係機関等との連携を強化して指導に当たっていく。(生徒指導) ・SC、SSWとの連携がさらに密になったとともに、市町村、医療機関との支援体制の強化を進めることができた。(教育相談)
2 環境美化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・美化推進委員会が中心となり校内の清掃美化を全校生徒に働きかけ、環境美化に努める。また、ゴミの分別の徹底を通じ規範意識も身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美化推進委員会が中心となり校内の清掃美化、ごみの分別等を全校生徒に働きかけ、環境美化に努めることができた。(美化推進)
3 組織的な学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・総合技術高校としての強みを生かし、新たな取り組みを探りながら学校を進化させていく。 ・校務支援システム(C4th)の円滑な運用を、情報処理係と教務係が連携して進めていく。 ・授業公開や体験入学、学科別オープンキャンパス等、中学校ならびに地域への広報活動内容の更なる充実と効率的な運営方法を検討していく。 ・生徒1人一台端末(BYOD)の活用について、関係部署で検討を進める。 ・新たな入試制度に合わせ、情報処理係と連携を取りながら業務や運営の改善をし、適切に入学選抜が行えるよう準備をしていく。 ・交通安全や個人情報の適切な扱いへの意識向上、わいせつ行為や体罰など非違行為の未然防止のための職員研修を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システム(C4th)の運用にあたり、情報処理係の協力により円滑な校務作業を行うことができた。職員による中学校訪問及び進路講話での生徒発表を各専門学科の協力により例年通り実施することができた。また、各担当係が計画した職員研修(保健衛生、生徒支援、交通安全等)が年間を通して実施された。(教務係) ・総合技術高校としての強みを生かし、他学科の教員や施設を活用した学習の場を設け、意欲的に学習に取り組むことができる環境を作ることができた。(キャリア学習) ・専門科目の魅力を伝え、学科相互に連携できるような授業を展開した。総合技術高校としての特色を活かした科目の選定、検討を進めている。(教育課程委員会) ・授業公開(4,6月の2回)、中学校生徒体験入学(7月)、学科別オープンキャンパス(10～11月)、全日制保護者説明会(11月)等、本校の生徒募集に係る広報活動を計画通り開催することができた。各種業務の細部の見直しにより効率よく実施することができた。(教務広報・体験入学委員会) ・生徒1人一台端末について、全学年でBYOD端末による学習活動を展開できた。授業内での活用については、関係部署間で連携し継続的に検討する。(情報処理係)